

「 祝辞 」

平成 24 年 3 月 23 日

卒業生のみなさん、本日はご卒業、誠におめでとうございます。

PTAを代表いたしまして、心より お祝い申し上げます。

1 年前わたしは、みなさんの先輩へ、ここで卒業の祝辞を述べさせていただきました。

その 2 週間前に起きた東日本大震災のこと、被災された方々のこと、みなさんのご家族も多くいらしゃったであろう被災地での救援、復興活動に従事された方々のこと。そして、温かい支援を忘れない方々のこと。その時、

「これから日本は、今までの価値観を変えて動き始めていくでしょうし、そうでなければ、被災された方々への報告ができません。

その中で、皆さんは「元気」に「自分という存在」をしっかり持って、何事にもチャレンジして行って下さい。」

と 1 年前、述べさせていただき、先輩たちは巣立っていきました。

その時在校生の代表学年であったみなさん、この 1 年間いかがでしたか？

1 年間のわたしを含めた大人たちの行動が、必ずしも日本の進むべき形

に最短距離でなっているかと言えば、難しい限りです。

しかし、いままでの日本社会が、大人たちが、かつて体験したことの無い激動の1年間のなかで、みなさんは、小学6年生として色々なことを経験し、また努力し、立派に成長しましたね。そして、今日3月23日、6年間の思い出を胸に 森の里小学校を巣立っていこうとしています。

来月より期待と緊張のなか、いよいよ 中学生としての生活がスタートします。

そこでみなさんへ ひとつお話ししたいことがあります。

この1年間で、わたしが個人的に、より感じたことです。

「ひとは、ひとりで生きているのではない」という話です。

人という漢字は、ご存知のように、支えあって人が成り立っているのを表しています。つまり、世の中は、目に見えるところ、見えないところで、誰かの支えで成り立ち、また誰かを支えあっている という真理があります。 ついついわたし達は、自分ひとりの力で生きているかのように思いがちです。とくに、良い時は、自分の力が凄いから、上手く行かない時は、まわりが良くないからだ、と、思ってしまうものです。そこで視点をちょっと変えて、世の中の成り立ちと、自己分析を考えてみるのが、大切です。

しかし、更にここで考えなければならないことは、その感謝の気持ちを

大切にしつつも ひとに支えられることに依存しない、まず誰かをあてにしない、他に言い訳を求めない「より自立した自分」をめざすことを ひとりひとりが忘れないということです。

「自立する」という事は、自分の行動に責任をもつということです。

「責任のある行動」とは、相手の立場になってものを考えたり、自分の言動が、全体のバランスのなかで、果たして正しいことだろうか？誰もが、納得できることだろうか？を一步引いて考えたうえで、最後は自分の責任のもとで判断して、行うのが望ましい事だとわたしは、感じています。

そんなことが、これから中学生になり、大人への階段を少しづつ上るみなさんにだんだんと 期待されるものでしょう。また、すでに大人になって久しいわたし達にも まだまだ求められることでもあります。

中学に入れば、勉強に追われる日々や、部活動もきびしくなったり、また友人関係や家族のなかでも さまざまなことを経験すると思います。

しかし、その 一つ一つが皆さんの成長の糧となることでしょう。

ちょっとくらいの失敗があっても、みなさんの長い人生においては、なんてことはありません。それも人生勉強のひとつです。ここにおられる、わたしを含めた大人達みんなが、とおってきた道だからです。

「夢や希望」を設定したら、それに向かって、なんでも、チャレンジして

いってください。まず、トライしてみる事が、大事なことです。

「山は、登って見なければ 見えない景色がある！」ということです。

みなさん、是非期待しています。これから、元気にがんばってください。

(抜粋)